# 特別支援教育リーダー養成プログラム開発

2007 年 4 月に「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、障害の重度・重複化や多様化、LD、ADHD 等の発達障害の児童生徒への対応や、早期からの教育的対応に関する要望が高まっている。

本生涯発達研究所は、2013 年度から瀬戸市学校教育課とこども家庭課（瀬戸市発達支援室）と共同で「特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会」を設置し、共同研究を進め、市内の小中特別支援学校や保育園･幼稚園等の現場で特別支援教育リーダーとして活躍できる人材の養成を目的として「特別支援教育リーダー養成プログラム開発」事業を行っている。受講者には毎回の小レポートに講師からのコメントを返し、1 年間のまとめレポートを提出してもらい、次年度の講座への要望等のアンケートをとり、次の課程のプログラムを検討してきた。2016 年度から 2017 年度までは、3 者の共催により第Ⅱ期瀬戸市特別支援教育リーダー養成講座を開催した。さらに、2018 年度からは、瀬戸市発達支援室は、児童発達支援センターの中に位置づけられ、三者の共催により 2019 年度まで、「第Ⅲ期瀬戸市特別支援教育リーダー養成講座」を実施した。以下にその内容を以下に記す。

**【主催】**

特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会（会長：山本理絵）
（愛知県立大学生涯発達研究所･瀬戸市教育委員会学校教育課･瀬戸市児童発達支援センター発達支援室）

**【受講条件】**

1　小中特別支援学校、幼稚園、保育園等で教諭または保育士として 3 年以上経験がある方。
2　特別支援教育のリーダーを目指し、将来、瀬戸市の小中特別支援学校や幼稚園、保育園等の現場で活躍しようとする強い意志があり、所属長が推薦する方。
3　年間 8 回（各 3 単位、全 24 単位）の講座のうち、6 回以上出席し、レポートを提出できる方。（やむを得ない事情で欠席する場合は、別講座を受講してレポートを提出していただきます。）レポートは、A4 表裏 1 枚までにまとめる。
4　本講座が開設する講座以外に、別講座として年間 6 単位（6 時間程度）以上取得できる方。（別講座は、特別支援教育に関する講演会やシンポジウム、学会への参加について、1 時間を 1 単位として換算します。）
5　特別な理由がある場合を除き、2 年間継続して受講できる方。

**【参加者】**　19 名

小学校教諭 5 名、中学校教諭 3 名、瀬戸特別支援学校教諭 1 名、保育園保育士 5 名、幼稚園教諭 3 名、発達支援室 1 名、愛知県立大学大学院生 1 名

## 【講座日時・内容】

〈2018 年度　第一課程〉基礎編

| 回 | 開　催　日 | 担当講師等 | 内　容　等 |
|---|---|---|---|
| ① | 5 月 26 日（土） | 藤井　奈保<br>（瀬戸市教育委員会） | （開講式）<br>講義「瀬戸市における支援体制」<br>グループワーク |
| ② | 6 月 30 日（土） | 三山　　岳<br>（愛知県立大学准教授） | 講義「乳幼児期から学童期の発達」 |
| ③ | 7 月<br>（2 日間の実施日の内 1 日参加） | 各園 | 療育巡回<br>（学校教員のみ）<br>（幼・保：自園での療育巡回） |
| ④ | 8 月 7 日（火）<br>午前 | 川上　康則<br>（矢口特別支援学校） | 講義「ユニバーサルデザインの授業」<br>（学校 2 年目教員対象　指導力向上講座と兼ねる） |
| ⑤ | 10 月 20 日（土） | 茅野　晶敬<br>（視覚発達支援あおぞら代表取締役） | 講義「読み書きの苦手な子どもの『見る力』 子どもの理解とその支援」 |
| ⑥ | 11 月 | 特別支援学級見学<br>（小学校）3 校依頼 | 見学研修 |
| ⑦ | 1 月 19 日（土） | 三山　　岳<br>（愛知県立大学准教授） | 事例検討会（小中） |
| ⑧ | 2 月 23 日（土） | 山本　理絵<br>（愛知県立大学教授） | 事例検討会（幼保） |

※　会場は、講義については原則として文化センター
※　時間は、原則 13：30～16：30
（講義等 90 分、論議 60 分、まとめ 30 分の予定）

〈2019 年度　第二課程〉応用編

| 回 | 開　催　日 | 担当講師等 | 内　容　等 |
|---|---|---|---|
| ① | 5 月 11 日（土）<br>13：30～ | 山本　理絵<br>（愛知県立大学教授） | 講義 「子どものとらえ方と個別の指導計画の作成―ソーシャルワークの手法を用いた問題解決の方法―」 |
| ② | 7 月 9 日（火）<br>10 日（水）<br>※開催日の内 1 日<br>13：00～16：00 | 見晴台学園 | 見学・体験・講話 |
| ③ | 8 月<br>※開催日の内 1 日 | のぞみ学園 | 体験研修 |
| ④ | 10 月下旬<br>※開催日の内 1 日 | ジョブグループ | 見学・講話 |
| ⑤ | 11 月<br>※開催日の内 1 日 | 特別支援学級（中学校） | 見学研修 |
| ⑥ | 12 月 3 日（火）<br>5 日（木）<br>※開催日の内 1 日 | 瀬戸特別支援学校 | 体験研修 |
| ⑦ | 1 月 25 日（土） | 山本　理絵<br>（愛知県立大学教授） | 事例検討会（幼保） |
| ⑧ | 2 月 22 日（土） | 三山　　岳<br>（愛知県立大学准教授） | 事例検討会（小中）・まとめ<br>（閉講式） |

※　会場は、講義については原則として文化センター
※　上記講座以外に、7 月 27 日（土）午後：県大発達障がいフォーラム「感受性豊かな子どもが輝くために～特別支援と音楽療法の実践から～」（星山麻木氏）、8 月 7 日（水）午前：指導力向上講座（川上康則氏）を「特別支援教育リーダー養成講座・特別講座」として実施。
※　上記講座以外に、1 年間で、別講座として 6 単位（6 時間程度）以上取得。別講座は、特別支援教育に関する講演会やシンポジウム、学会への参加について、1 時間を 1 単位として換算。
別講座のレポートは 1 月末までに提出。

【連絡先】　特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会　事務局
瀬戸市教育委員会学校教育課　　池田　有希
瀬戸市発達支援室　　山内　房子

なお、本講座の連携体制と実施内容及び成果と課題について、2019 年 9 月 5 日～7 日に世界幼児教育・保育機構（OMEP）アジア・太平洋地域大会においてポスター発表を行った。発表は英文であった（Developing ECEC professionals in local government in cooperation with universities: An analysis of special support education training）が、その日本語版を、次頁に掲載する。

（文責：山本理絵）

Professional Development 4－10

# 大学と自治体との連携による保育職研修に関する検討

## ー特別支援教育の研修の分析からー

山本　理絵，三山　岳（愛知県立大学）

## 背景

### 自治体における保育士研修の課題

・特別支援教育に対する社会の期待の高まり
・保育士・教諭の世代交代が進み、ベテランの保育士・教諭が定年退職しますます減少
・学校や多様な機関と連携して子どもや家庭に関する課題を解決に導いていく力量が求められている
・現場にいながら同僚の保育士・教諭等に対して援助ができる特別支援教育のリーダー的人材が必要

### 事業の経緯

愛知県立大学生涯発達研究所が主催、瀬戸市（人口13万人）が協力して「特別支援教育リーダー資格認定（SEL）課程」を設け、2013年度からプログラムを作成・実施している。具体的には、ECEC専門職が学校教員とともに研修を受け、修了後には「SEL」としてそれぞれの立場で特別支援教育の推進者となり、他機関と連携を図りながら瀬戸市の特別支援においてリーダーシップを発揮することを目指している。

## 研究目的

本研究の目的は、この研修講座の運営体制・大学と自治体との連携方法と６年間の成果や課題を考察することを通して、各自治体において特別支援教育・保育を担いうるＥＣＥＣ専門職をどう養成してくのか検討することである。

## Results

### 運営体制 連携方法

愛知県立大学 生涯発達 研究所

プログラム開発研究会

学校教育課（指導主事）

小学校　20校
中学校　８校
特別支援学校　１校

瀬戸市発達支援室

教員1名、保育士１名、保健師１名

発達や子育てに関する相談
・発達検査
・親子支援教室
・発達に関する講演会
・巡回相談

瀬戸市こども家庭課

公立保育園１０園
民間保育園１５園
児童発達支援センター１園

私立幼稚園７園

### 特別支援教育リーダー養成講座の内容

（１）受講者の条件（定員20名）：勤務として受講することが可
瀬戸市の幼稚園・保育園・小中学校の教諭・保育士として３年間以上在職し、職場で活躍しようという強い意志がある方

（２）講座の内容
２年間、年間８回の講座

「第一課程」：講義（特別支援教育・発達障がい･巡回相談に関する総論、瀬戸市における特別支援教育の現状と課題、乳幼児期から学童期の発達）と、療育施設や特別支援学校での体験研修、事例検討
＊毎回、60分以上の討論を取り入れ、振り返りレポート記入に30分。

「第二課程」：多様な施設での実習と事例検討
＊受講者には毎回の小レポート、１年間のまとめレポートを提出。
＊講座修了者には「特別支援教育リーダー資格認定証」を授与

### 成果

講座修了者は
① よく情報交換をするようになった。
②児・保護者の思いを受け止めた支援をできるようになった。
③長期的な視野で子どもの成長発達を捉え、他機関への理解を深めた。
④専門的リーダーとしての自覚をもって各職場で活躍するようになった。
⑤自主的に集り、勉強会や事例検討会を行うようになった。
⑥2016年度より瀬戸市から予算がつくようになり、共催事業によるプログラムとなった。

### 今後の課題

①親の発達障がい、虐待や貧困問題、多文化と絡んでいるケースにおける研修や機関連携。
②「SEL」が活躍できる場づくり
（SSW講座との連携。SV制度の設立）
③受講生の拡充。幼稚園・民間保育園・子育て支援センター・障害幼児通園施設の積極的参加の推進。
④リーダー養成講座を継続できるシステムの構築－大学によるプログラムのコーディネート・スーパーバイズ、最新知識の提供、大学院との連携。瀬戸市による行政的な役割の理解及び予算や人材の活用。

## 結論

大学と行政が連携するうえで重要なポイントは、①大学がプログラムの質を保証するという役割の認識、②機関の特徴に応じた過重負担のない役割分担のあり方の模索、③異なる教育システムのつなぎ役となること